

《担当者名》教授 / 太田 亨

【概要】

歯科医療に携わる専門家として、臨床遺伝学の基礎・専門的知識を理解し、さらに、現在の分子遺伝学の進歩や、問題点についても学習することにより、実際の医療において、正確な知識をもって遺伝性歯科疾患に対応できることを目的とする。

【学修目標】

- 生命の設計図であるDNAの基本を学び、その仕組みを理解する。
- 臨床応用のための疾患発症の機序を、ゲノムや遺伝子から説明する。
- 分子遺伝学の基礎から、遺伝医学、臨床遺伝学の基礎を説明する。
- 歯科疾患の原因となる先天異常や染色体異常を、列記し説明する。
- 医療の現場において、遺伝に関する相談をうけたときの確な返答をする。
- 最近のゲノム研究の見解や進歩について説明できる知識を集積する。
- ゲノムや遺伝子に関する社会問題に対し、医療に携わるものとしての専門的な知識で対応する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ヒト遺伝学を学ぶにあたって遺伝学の歴史	遺伝医学の重要性 遺伝学の歴史	太田 亨
2	分子遺伝学の基礎	DNAの構造 タンパク質の共通構造 遺伝子の転写・翻訳機構 DNAの複製機構	太田 亨
3	染色体構造とゲノム	ヒトゲノムの構造 原核生物と真核生物のゲノム構造の違い 染色体構造とセントロメア・テロメア ヘテロクロマチンとユークロマチン ヒト染色体 染色体の体細胞分裂と減数分裂 ミトコンドリアDNA ゲノムプロジェクトとは	太田 亨
4	ヒト遺伝研究の分子生物学的手法の実際	ゲノムDNAのクローニング 各種ハイブリダイゼーション PCR ゲノム、cDNAライブラリー DNAマイクロアレイ DNA塩基配列決定法	太田 亨
5	ゲノムDNAの不安定性と変異	ゲノムDNAの不安定性 ゲノム内の反復配列 多型と変異 疾患と遺伝子変異	太田 亨
6	形質遺伝学と遺伝性疾患(1)	ヒトのメンデル遺伝(1) 座位異質性 浸透率 表現促進	太田 亨
7	形質遺伝学と遺伝性疾患(2)とメンデル遺伝に従わない遺伝	ヒトのメンデル遺伝(2) 多因子遺伝 ゲノムインプリンティング ミトコンドリア遺伝病	太田 亨

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
8	遺伝子マッピング 疾患原因遺伝子のマッピング	遺伝子のマッピング 物理的マッピングと遺伝的マッピング マッピングのためのマーカー 連鎖解析 組み換え率 パラメトリック・ノンパラメトリック連鎖分析 連鎖不平衡	太田 亨
9	染色体異常	ヒトの染色体異常 ダウン症候群 その他のトリソミー ターナー症候群 ロバートソン転座 他の染色体異常	太田 亨
10	遺伝病各論	デュシャンヌ型筋ジストロフィー ヘモグロビン異常症 ハプロ不全による疾患 ブラダー・ウィリー症候群とアンジェルマン症候 群 ハンチントン病 反復配列の異常による疾患	太田 亨
11	遺伝病各論	歯科領域で単離された遺伝子異常 歯科領域の遺伝関連性疾患	太田 亨
12	遺伝病各論	口腔・顔面・頭蓋の異常をきたす遺伝関連性疾患	太田 亨
13	がんと遺伝 発生・免疫	遺伝性のがん がん抑制遺伝子とがん遺伝子 免疫グロブリンの遺伝子 発生を調節する遺伝子	太田 亨
14	ポストゲノム時代の遺伝学	SNP エピジェネティクス ハプロタイプマッピング 遺伝子診断・遺伝子治療 遺伝子組み換え体	太田 亨
15	遺伝カウンセリングと倫理	遺伝カウンセリングの実際 遺伝と社会的問題点	太田 亨

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

定期試験（100％）

#### 【教科書】

新川 詔夫 ほか 編 「遺伝医学への招待 改訂第6版」南江堂 2020年

#### 【参考書】

Tom Strachan ほか 編 「ヒトの分子遺伝学 第4版」メディカル・サイエンス・インターナショナル 2011年

#### 【学修の準備】

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を一読し理解しておく(40分)

復習は、講義項目のプリント内容を記憶する(40分)

#### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を病態遺伝学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を病態遺伝学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を病態遺伝学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を病態遺伝学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を病態遺伝学の観点から修得する（社会的貢献）。

**【実務経験】**

太田 亨（医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

小児科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。